

大阪国際がんセンター 初期臨床研修プログラム

(2022年度版)

大阪国際がんセンター臨床研修管理委員会

なお、本プログラムの1年目研修プログラム内容は「大阪大学医学部附属病院臨床研修プログラムC」の1年目の研修内容にも適応されます。

大阪国際がんセンター 初期臨床研修プログラム

（はじめに）

大阪国際がんセンター（旧大阪府立成人病センター）は成人病診療の基幹病院として、併設の研究所、がん対策センターと連携しつつ常に最良で高レベルの医療を患者様に提供すべく努力してきました。また、がん・循環器疾患の専門施設として各分野の専門医の育成にも努めています。この実績が認められ、公立医療施設としては全国で初の「特定機能病院」の承認を得ています。これらの実績を基盤に初期臨床研修プログラムに基づき、若手医師の臨床研修にも積極的に取り組む所存です。

（研修の目的）

初期臨床研修医は技術以前の課題として、臨床医の基本である「患者様第一」の精神で、患者様のために自分のベストをつくす行動パターンをまず体得する必要があると考えます。その為には全身全霊、患者様の訴えに耳を傾け、病状の把握と理解に努めることが大切であり、臨床医は一般的に遭遇するあらゆる疾患や救急病態に対して、初期診療を含む一定の対応のできる能力、プライマリーケア能力がまず要求されます。我々はまず医師として通常要求されるこのプライマリーケア能力の獲得を目的の第一に設定しています。その上で、各自が望む領域の研修に励んでいただきたいと思います。それに加え、患者様およびその家族と心情的に豊かな交流を持ちうる人間性の形成、医療安全への基本を身につけること、さらには一科学者、一社会人としての幅広い教養の獲得のための日常の研鑽も望んでいます。

（研修の概要）

大阪国際がんセンターは、厚生労働大臣の指定する基幹型臨床研修指定病院として、協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設で研修病院群を構成し初期臨床研修を実施しています。

初期臨床研修 2 年の間に厚生労働省が定めた必修科目である内科・救急・地域医療・外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科のすべてを研修できるプログラムが作成されています。また、これらの科を含めすべての診療科（協力型臨床研修病院のそれを含む）から希望診療科を選択できる期間を設定し、より広範囲かつ高度の内容の研修を受けることを可能にしています。

現在は当センターの協力型臨床研修病院として、国家公務員共済組合連合会大手前病院・独立行政法人国立病院機構大阪医療センター・社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院・大阪精神医療センター、また、臨床研修協力施設として医療法人長田医院、医療法人岩本診療所に御協力頂いております。

研修医を対象とする基礎的講習会（心電図等の画像情報読影訓練、救急救命処置、人工呼吸器使用法、腎透析実施法、など）は義務的参加であり、これ以外にも研修医・一般医師を対象とした（院内・院外）講習会や研究所、がん対策センター主催によるセミナーが開催されています。CPC（臨床病理カンファランス）にはすべての研修医の参加が予定されています。

（研修の方針）

1. 将来いずれの診療科を専攻しようとする者も、まず幅広い臨床研修を通じてプライマリーケア能力、スタッフとのチームワーク能力等の習得を目指し、将来の臨床医、専門医にふさわしい基礎能力を獲得する。
2. 診療技術を含む患者情報の的確な収集能力を身につけ、患者様の持つ問題点の整理明確化を図り、解決のための論理的な計画立案およびその治療実行能力を習得すること。
3. 医師と患者様およびその家族との間に適切な人間関係が構築でき、論理的な説明とインフォームドコンセント

取得が行えること。

4. 地域医療の最前線にある協力型研修病院および研修協力施設と連携することにより、幅広い疾患群の経験をめざすとともに、社会医学・予防医学の重要性および医療の社会性・公共性を学ぶこと。
5. 研修医本人、他の医療従事者、患者本人および家族の医療安全への基本的配慮を身につけること。
6. 医療従事者として適切な自己評価を常に行うとともに、一科学者、一社会人として自立できるよう知識、教養を習得すべく研鑽に励むこと。院内外での各種検討会、カンファレンス、勉強会などにも積極的に参加すること。
7. 研修医として研修委員会の指導に従うとともに、所属施設の職員の一人としての規律に従い、リスペクト（尊敬）されるように努力すること。

（臨床研修の到達目標、方略及び評価）

I 到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

③医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①医療上の疑問点を研究課題に変換する。

②科学的研究方法を理解し、活用する。

③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

②同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

Ⅱ 実務研修の方略

研修期間

研修期間は原則として2年間以上とする。

協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合にあっては、原則として、1年以上は基幹型臨床研修病院で研修を行う。なお、地域医療等における研修期間を、12週を上限として、基幹型臨床研修病院で研修を行ったものとみなすことができる。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29症候）

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26疾病・病態）

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

Ⅲ 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

研修医評価票

I. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

- A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
- A-2. 利他的な態度
- A-3. 人間性の尊重
- A-4. 自らを高める姿勢

II. 「B. 資質・能力」に関する評価

- B-1. 医学・医療における倫理性
- B-2. 医学知識と問題対応能力
- B-3. 診療技能と患者ケア
- B-4. コミュニケーション能力
- B-5. チーム医療の実践
- B-6. 医療の質と安全の管理
- B-7. 社会における医療の実践
- B-8. 科学的探究
- B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

III. 「C. 基本的診療業務」に関する評価

- C-1. 一般外来診療
- C-2. 病棟診療
- C-3. 初期救急対応
- C-4. 地域医療

（研修の方法）

1. 2年間のローテート方式により研修を行います。厚生労働省が必修科目と定めた内科・外科・小児科・産婦人科・精神科・救急・地域医療は優先して研修を受けて頂きます。
2. 小児科、産婦人科、精神科、救急及び地域医療の一部研修は協力型臨床研修病院および研修協力施設で行います。
3. 研修医には研修指導医が定められ、その指導のもと臨床研修に従事します。なお研修上必要ならば研修医は研修指導医とともに当直業務の研修も行います。
4. 研修医の評価についてはオンライン臨床研修評価システム（EPOC・エポック）で行います。
5. 臨床研修を修了した研修医には、大阪国際がんセンター総長より臨床研修修了証を交付します。
6. 各種問題解決を含む研修の調整、運営及び決定は、臨床研修管理委員会が担当します。
7. 臨床研修医はその研修期間中は関連法令、関連諸規定の遵守義務を負います。

（研修スケジュール）

厚生労働省が必修科目と定めた内科（24週以上）、外科（4週以上）・小児科（4週以上）・産婦人科（4週以上）、精神科（4週以上）、救急（12週以上）及び地域医療（4週以上）の研修を実施する。

救急については当センター麻酔科で4週研修を行い、残り8週については協力型臨床研修病院の国家公務員共済組合連合会大手前病院もしくは独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（救急救命センター）にて行います。

小児科及び産婦人科については社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院にて実施します。

精神科研修は大阪府立精神医療センターにて実施します。

地域医療については、原則、2年次に行う。研修は臨床研修協力施設（医療法人長田医院もしくは医療法人岩本診療所）で実施します。

上述の科を含め当センター全ての診療科から研修医の希望に基づき診療科を選択できる期間を24週設定しています。具体的な研修診療科、研修期間等については、別途調整の上決定します。

また、上記自由選択期間においては協力型臨床研修病院（国家公務員共済組合連合会大手前病院・独立行政法人国立病院機構大阪医療センター・社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院・大阪精神医療センター）における研修も可能です。（研修機関・研修診療科については協力型臨床研修病院と調整の上、決定）

(診療科研修プログラム)

消化管内科

【一般目標(GIO)】

代表的な消化管癌について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 消化管癌のリスクファクターを理解する。
- リスクに応じた消化管癌のスクリーニングを行う。
- 発見した病変に対し、癌と非癌の鑑別を適切に行う。
- 癌の深達度診断、拡がり診断（ステージング）を正確に行う。
- ステージングに基づき適切な治療法を選択する。
- 内視鏡切除の技術を習得する。
- 内視鏡切除後のサーベイランスを理解する。

【方略(LC)】

- 常勤医とともに内視鏡切除を行い、技術指導を受ける。
- 内視鏡カンファレンスで癌と非癌の鑑別、内視鏡切除後のサーベイランスを理解する。
- 内科外科カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、深達度診断、拡がり診断（ステージング）について習熟する。
- 内視鏡所見に関し常勤医のダブルチェックを受けて、リスクに応じた消化管癌のスクリーニングが行えているかの確認を受け、必要に応じて指導を受ける。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟/内視鏡	病棟/内視鏡	抄読会 病棟/内視鏡	病棟/内視鏡	病棟/内視鏡
午後	病棟/内視鏡 カンファレンス	病棟業務/内視鏡 カンファレンス	病棟/内視鏡	病棟/内視鏡 カンファレンス	病棟/内視鏡

肝胆膵内科

【一般目標(GIO)】

代表的な肝胆膵疾患について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

問診、診察を行い、採血結果を評価し、診療方針や鑑別診断について考えることができる。

各種画像検査（超音波、CT、MRI、内視鏡など）の必要な病態や疾患を理解し、診療方針について説明できる。

代表的な肝胆膵疾患の病態を理解し、薬物、非薬物的治療について説明できる。

代表的な肝胆膵疾患に関して、基礎疾患や増悪因子について理解し、治療や生活指導について説明できる。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、肝胆膵の医療について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	カンファレンス	病棟業務	病棟業務	カンファレンス

呼吸器内科

【一般目標(GIO)】

呼吸器内科診療において代表的疾患である肺炎(感染症)、間質性肺炎、肺気腫、喘息、小細胞肺癌、非小細胞肺癌について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

□胸部レントゲン画像、ならびにCT画像の基本的な読影をすることができる。

□静脈採血、静脈ルート確保、動脈採血ができる。

□気管支内視鏡検査の必要な病態、疾患を理解し、修練度に応じた検査が施行出来る。

□肺炎(感染症)、間質性肺炎、肺気腫、喘息、小細胞肺癌、非小細胞肺癌の病態を理解し、薬物・非薬物的治療について説明できる。

□肺炎(感染症)、間質性肺炎、肺気腫、喘息患者の基礎疾患や増悪因子について理解し、治療や生活指導について説明できる。

□問診、聴診を含む基本的身体診察、バイタル測定、神経学的所見等により呼吸困難の原因を鑑別し、必要な検査や入院の適応について説明できる。

□一般的な輸液、鎮痛薬(麻薬を含む)の管理ができる。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、肺炎(感染症)、間質性肺炎、肺気腫、喘息、小細胞肺癌、非小細胞肺癌の診療について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。
- 当科であらかじめ用意してある画像をみて、読影をする。
- 気管支内視鏡検査に参加し、修練度に応じて咽頭麻酔、挿入、内腔観察、検体採取に従事する。
- 感染症診療については、感染症内科の協力のもと、一定の講義を受講する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	気管支内視鏡 検査	カンファレン ス	気管支内視鏡 検査	病棟業務	カンファレン ス

血液内科

【一般目標(GIO)】

代表的な血液疾患、白血病、悪性リンパ腫、などについて診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 病歴、身体所見を記録し、鑑別診断につなげることが出来る。
- 末梢血液像、その他生化学検査を判読し血液疾患の鑑別診断が出来る。
- 抗ガン剤の作用機序、効果、副作用を理解する。
- 抗ガン剤治療時の易感染状態の管理ができる。
- 血液疾患で使用される分子標的薬の作用機序、効果、副作用を理解する。
- 自家、同種造血細胞移植の理論を理解する。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、診断、治療のプロセスを理解する。
- 看護師、薬剤師などコメディカルとともにチーム医療の実践を理解する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	カンファレンス	カンファレンス

腫瘍内科

【一般目標(GIO)】

代表的な消化管・乳腺の悪性疾患について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

□上記の患者の診療録を記録し、判読することができる。

□化学療法の実施予定、実施中の患者に必要な検査をオーダーでき、また、その結果を解析できる。

□患者に必要な標準的な化学療法を適切にオーダーできる。

□標準的な化学療法を実施した際に想定される有害事象について、患者および家族に適切に説明できる。

□発熱性好中球減少、胃腸器症状、感染症などの頻度の高い有害事象に対して、適切な対応ができる。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、代表的な標準化学療法について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	カンファレンス	病棟業務	病棟業務

消化器外科

食道、胃、小腸、結腸、直腸、膵、肝、胆道などの消化器系悪性腫瘍が対象。上部、下部、肝胆膵の3グループからなる臓器別診療体制をとっており、それぞれの専門家が最新の診断法と治療法を駆使しながら、個々の症例の病期に適した手術および併用療法（抗がん剤治療、分子標的薬など）を行っている。

【一般目標(GIO)】

代表的な消化器外科疾患について診断および基本的な治療に必要な知識・技術を身につける。手術に関する研修が中心となるが、周術期管理や術後合併症への基本的対応も習得する。

【具体的目標(SBOs)】

A 消化器外科研修において特に経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的診療能力

1. 各疾患の一般的な手術適応を説明できる。
2. 術前機能検査結果の正常、異常を判断できる。
3. 主要な手術術式の概略を説明できる。
4. 主要な手術術式について、合併症がない場合の社会復帰などの経過の概略を説明できる。
5. 主要な手術術式について、一般的な術後合併症を列挙できる。
6. 手術術式に特徴的な術後合併症を説明できる。
7. 清潔、不潔操作への参加が確実にできる。
8. 単独で手洗い、手術参加ができる。
9. 主要な手術術式について、合併症のない場合の術後日数ごとの血液検査値の推移の概略を説明できる。
10. 外科診療に必要な医学情報を効率的に収集し、それらを統合した上での確な臨床的判断をくだすことができる。

(2) 診察法

1. 医療面接技術

面接および正しい病歴の聴取が適切にできる。

2. 外科的診察法

内科的診察法（血圧、脈拍、呼吸などのバイタルサインの把握が的確にできる。視診、触診、聴診などの正しい手技を習得し、全身所見と局所所見をとることができる。）に加え、体表臓器の診察法、直腸内指針の診察法の正しい手技を取得する。

3. 臨床的情報処理技能

1. POS (Problem Oriented System) による診療録の記載ができる。
2. 処方箋、指示書が適切に記載できる。
3. 問題を正しく把握し適切な検査・治療計画が立てられる。
4. 医の倫理に立脚し、患者・家族の人格と人権を尊重できる。
5. 信頼に基づく好ましい医師患者関係を形成できる。
6. 患者・家族のプライバシーを守れる。
7. インフォームド・コンセントの重要性を理解し実行できる。
8. 自己の能力の限界を自覚し他の専門職と連携できる。
9. 他の医療関係者の業務を知り、チーム医療を率先して実践できる。
10. 他医に委ねる時、適切に判断して必要な記録を添えて紹介・転送できる。
11. 紹介患者について適切な返書が記載できる。

12. 保険医療と医療経済に関する知識を正しく理解できる。
13. 医療関係文書（各種診断書）が適切に記載できる。
14. 診療経過の問題点を総合的に整理・分析・判断・評価できる。
15. 文献検索を含めた情報の収集・管理ができる。
16. 症例呈示・要約が適切にできる。
17. 死亡に際しては剖検を薦め、これに立ち会う。

（3）基本的外科臨床検査

採血ならびに各種検体採取および保存ができる。

自ら施行できる検査

1. 一般血液検査
2. 尿検査
3. 検便
4. 血液ガス
5. 出血時間
6. 心電図
7. 胸部、腹部単純X線検査
8. 超音波検査
9. 血糖

結果を解釈できる検査

1. 血液血清生化学検査
2. 簡易肺機能検査
3. 内分泌学的検査
4. 細菌学的検査
5. 薬剤感受性検査
6. X線CT、MRI検査

（4）基本的治療法

基本的処置

1. 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈、点滴）
2. 導尿
3. 浣腸
4. 胃管の挿入
5. 体腔穿刺
6. 酸素療法

主要な外科疾患の基本的治療手技

1. 薬物療法
 - (ア) 内服
 - (イ) 静注
 - (ウ) 補液
2. 輸血療法
3. 食事療法
4. 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄など）
5. リハビリテーションの適応と指導
6. 放射線治療の適応

7. 手術の適応
8. 生活指導、教育
9. 入退院の適応と退院指導

B 経験すべき症状、病態、疾患

1 基本的疾患

1. 上部消化管：食道がん、胃がん
2. 下部消化管：結腸がん、直腸がん
3. 肝胆膵：肝がん、胆道がん、膵がん

2 併存疾患

感染症、中枢神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患、婦人科疾患、運動機能疾患等への理解を十分に深めるとともに、それぞれの周術期管理をマスターする。

3 術後合併症

手術部位感染（皮切創浅部の外科手術部位感染、皮切創深部（筋膜、筋層）の外科手術部位感染、臓器・体腔の外科手術部位感染、縫合不全を伴う外科手術部位感染、縫合不全（消化管－消化管、胆管－消化管、膵管－消化管）、胆汁瘻、術後肺炎、予定外の気管内挿管、術後に生じた腎機能障害、術後に生じた尿路感染症、術後に生じた中枢神経障害、心臓関連合併症（心筋梗塞、蘇生を要した心停止）、術後輸血、術後敗血症（重症敗血症、敗血症、SIRS）など。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、消化器外科について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療・合併症について習熟する。
- 積極的に研究会、学会に参加し、自らも発表する。

【週間スケジュール表】

	月	火	水	木	金
午前	ICU, HCU会議 業務	ICU, HCU会議 業務	ICU, HCU会議 業務	ICU, HCU会議 業務	ICU, HCU会議 医局会、抄読会 業務
午後	業務 (消化管外科) 回診・カンファ レンス	業務	業務	業務	業務 (肝胆膵外科) 回診・カンファ レンス

呼吸器外科

【一般目標(GIO)】

肺がんおよび胸部悪性腫瘍について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 手術の助手ができる。
- 胸腔ドレーン挿入が指導医の指導のもとにできる。
- カルテ記載ができる。
- 肺がんおよび胸部悪性腫瘍の治療方針についてその基本を理解する。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、手術の助手として参加する。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	手術もしくは 病棟業務	手術もしくは 病棟業務	病棟業務	手術もしくは 病棟業務	手術もしくは 病棟業務
午後	手術もしくは 病棟業務	手術もしくは 病棟業務	カンファレン ス	手術もしくは 病棟業務	手術もしくは 病棟業務

乳腺・内分泌外科

【一般目標(GIO)】

乳腺診療の基本の理解と基本的手技の習得。

【具体的目標(SBOs)】

□担当：病棟受け持ち、手術助手、外来診療補助、外来処置

□内容 乳房・腋窩の解剖、ホルモン環境と乳腺、乳腺疾患の疫学に関する理解
乳癌の診断ストラテジーおよび基本手技（問診、視触診）の習得
マンモグラフィー・超音波検査の基礎と読影
穿刺吸引細胞診、針生検、組織吸引術の助手および実施
センチネルリンパ節生検の理解と薬剤投与、乳腺疾患手術の助手
術後補助療法の基礎と術後リハビリテーションの理解・実践

【方略(LC)】

- 患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、乳腺診療の基本について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、乳腺疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術
午後	病棟業務 外来処置	病棟業務 カンファレンス	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術

脳神経外科

【一般目標(GIO)】

悪性脳腫瘍について診断および基本的な治療方針、周術期管理に必要な知識を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 神経学的所見を的確に取ることができる。
- 神経症状の変化に対して病態を理解し、必要な検査や輸液管理など組み立てることができる。
- 解剖学的知識を深め、MRIなど画像の読影に必要なポイントを理解する。
- けいれん発作に対し、対応できる。
- 術前、術後に必要な検査を理解し、検査のスケジュールを組み立てることができる。
- 周術期管理について、脳腫瘍の術前後に気を付けなければならない病態を理解する。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、悪性脳腫瘍患者の周術期について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	手術	病棟業務	病棟業務	病棟業務 手術(第一金曜日)
午後	病棟業務	手術	病棟カンファレンス 病棟業務	脳腫瘍カンファレンス(大阪大学 脳腫瘍グループと合同)	血管撮影

整形外科

【一般目標(GIO)】

あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるよう幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となること

【具体的目標(SBOs)】

- 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 診療記録の適確な記載ができること。
- 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- チーム医療の一員として行動すること。
- 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと。

【方略(LC)】

- ・あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養する。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を身につける。
- ・あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を修得する。
- ・臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得する。
- ・指導医とともに患者・家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につける。

【大阪国際がんセンター週間予定表】

	AM	PM
月	外来・抄読会	外来・部長回診・カンファレンス
火	外来・手術	外来・手術・術後回診
水	外来・手術	外来・手術・術後回診
木	外来	外来・カンファレンス
金	外来・手術	外来・術後回診

婦人科

【一般目標(GIO)】

代表的な婦人科腫瘍について診断及び治療ができる基本的な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

□問診，婦人科診察を行ない，診療録を記録し，採血結果，画像を判読することができる。

□良性・悪性腫瘍を鑑別するための，必要な検査や入院の適応について説明し，施行できる。

□病棟患者を受け持ち，カンファレンスでのプレゼンテーション，術前説明，諸処置，手術助手，診療録記載ができる。

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる患者の担当医となり，診療や検査に従事する。
- ・患者を指導医とともに診察し，婦人科腫瘍について学ぶ。
- ・カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い，各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス，病棟業務 手術	カンファレンス，病棟業務 外来診察	カンファレンス，病棟業務 外来診察	カンファレンス，病棟業務 手術	カンファレンス，病棟業務 手術
午後	手術 病棟業務	手術 病棟業務	手術 病棟業務 カンファレンス	手術 病棟業務 カンファレンス	手術 病棟業務

泌尿器科

【一般目標(GIO)】

代表的な泌尿器腫瘍について診断および基本的な治療を行うために必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 副腎、腎、尿管、膀胱、前立腺、精巣の解剖を理解し、血管支配について説明できる。
- 尿路性器疾患に関する理学的所見を記録し、判読することが出来る。
- 経静脈的腎盂造影検査、逆行性腎盂造影、膀胱造影、膀胱鏡検査の必要な病態、疾患を理解し、施行出来る。
- 尿道カテーテル留置の適応について学び、必要であれば施行できる。
- 腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌の病態を理解し、診断法、薬物・非薬物的治療について説明できる。
- 問診により、血尿、排尿障害、頻尿の原因を鑑別し、必要な検査について説明できる。
- 腎、膀胱、前立腺エコー検査について学び、施行出来る。
- 陰嚢内容手術、腹腔鏡下手術における第2助手を施行出来る。
- 泌尿器手術の周術期管理について学び、説明できる
- 泌尿器腫瘍に対する化学療法、分子標的療法、免疫療法について学び、説明できる

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、泌尿器腫瘍に対する医療について学ぶ。
- 指導医とともに外来患者の処置に参加し、手術後の創部処置、尿路カテーテル交換、膀胱鏡検査について学ぶ。
- 担当患者の手術に第2助手、第3助手として参加し、泌尿器科腫瘍に対する手術を学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 手術	病棟業務 外来処置	病棟業務 手術	カンファレンス 病棟業務 外来処置	病棟業務 外来処置 手術
午後	手術	前立腺生検、造 影検査 カンファレンス	手術	造影検査 病棟業務	手術

頭頸部外科

【一般目標(GIO)】

代表的な頭頸部癌について診断および基本的な治療に関する知識・技術を身につける。
頭頸部癌治療において必要な多職種チーム医療の重要性についての理解を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 内視鏡で、口腔・咽喉頭を記録し、異常所見を判読することが出来る。
- 治療後の嚥下障害の原因や病態について、嚥下造影検査をもとに行われるカンファレンスを通し理解できる。
- 頭頸部癌治療後のQOLについて学び、手術、放射線治療、化学療法の役割について理解できる。
- 頭頸部癌に特有の終末期患者の緩和ケアについて理解できる。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、手術や化学療法、化学放射線療法について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 or 手術	部長回診 嚥下造影検査	病棟業務 or 手術	病棟業務 or 手術	病棟業務 or 手術
午後	手術	嚥下カンファレンス 頭頸部カンファレンス	手術	手術	手術

心療・緩和科

【一般目標(GIO)】

抑うつ、不安、せん妄、認知症について診断および基本的治療に必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 精神症状を適切に記載することができる。
- 精神症状を生じさせている精神医学的病態と心理を理解できる。
- うつ病、不安障害、せん妄、認知症の病態を理解し、診断的評価ができる。
- うつ病、不安障害、せん妄、認知症の病態を理解し、薬物・非薬物的治療を説明できる。
- 抗うつ薬、抗精神病薬、抗不安薬、睡眠導入薬の作用を理解し、適切に用いることができる。

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療に従事する。
- ・患者を指導医とともに診察し、精神腫瘍学的診療について学ぶ。
- ・カンファレンスで担当患者のプレゼンテーションを行い、各疾患の評価と治療に習熟する。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	8:30-9:00	9:00-9:30
	心療・緩和科	心療・緩和科	心療・緩和科	心療・緩和科	心療・緩和科
	症例検討	症例検討	症例検討・	症例検討	症例検討
	10:00-10:30		心理検討		
	緩和ケアチーム回診	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
			15:30-16:30		
			緩和ケアチーム	18:30-19:30 隔週	
			カンファレンス	精神腫瘍学	
				多地点合同	
				症例検討会	

放射線腫瘍科

【一般目標(GIO)】

代表的な放射線治療適応疾患について診察および基本的な放射線治療計画、実行、経過観察ができるように必要な基本的な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 診察時に病歴、現症を電子カルテ、患者データベースに記録し、判読することができる。
- 代表的放射線治療適応症例の病態や治療法、有効性、副作用を含む経過を理解し、説明できる。
- 各種放射線治療法の医学物理学的原理、生物効果と臨床応用について基本を学び、説明できる。
- 基本的放射線治療計画を実行できる。
- 各種がんに対する集学的治療の中で外科、薬物、放射線療法的位置づけの基本を説明できる。
- 緩和的放射線治療を必要とする患者の病態や緊急性や経過について理解し、治療や他関連診療科との連携や治療後の生活指導について基本を学ぶ。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、放射線治療の基本について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	Planチェック 外来業務	Planチェック 外来業務	Planチェック 外来業務	Planチェック 外来業務	Planチェック 外来業務
午後	放射線治療計画 初診カンファ レンス RALS	放射線治療計画 初診カンファ レンス 頭頸部カンファ レンス	放射線治療計 画 初診カンファ レンス RALS	放射線治療計画 初診カンファ レンス 婦人科カンファ レンス	放射線治療計画 初診カンファ レンス 肝胆脾カンファ レンス

腫瘍循環器科

【一般目標(GIO)】

代表的な心不全について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

心不全の患者さんの問診、理学的所見をとることができ、それを記録することが出来る。

採血、レントゲン、心電図検査の必要な病態、疾患を理解し、施行出来る。

心不全の病態を理解し、薬物・非薬物的治療について説明できる。

心不全患者の基礎疾患や増悪因子について理解し、治療や生活指導について説明できる。

問診も含め、理学的所見、各種検査により心不全の原因を鑑別し、必要な検査や入院の適応について説明できる。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、心不全管理について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務 検査	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	カンファレンス	カンファレンス	病棟業務	病棟業務

脳循環内科

【一般目標(GIO)】

代表的な脳血管障害について診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

□脳血管障害症例の神経所見を正確にとれて、カルテに記録することができる。

□頭部CT検査、頭部MRI検査を正確に判読することができる。

□脳血管障害患者に必要な各種検査（頸動脈エコー、脳血流スペクト）について学び、必要であれば実施施行できる。

□脳血管障害の病態を理解し、薬物的治療について説明できる。

□脳血管障害例のリハビリテーションについて学ぶ。

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- ・患者を指導医とともに診察し、脳血管障害について学ぶ。
- ・カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、脳血管障害の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	頭部CT・頭部MRI検査読影	リハビリテーション	病棟業務	頸動脈エコー実施

放射線診断・IVR科

【一般目標】

画像診断IVRについて特に腫瘍学分野での幅広い知識・技術を身につける。

【具体的目標】

□単純写真、CT、MRIにつき、すべての領域の基本的な読影知識、読影レポートを書く上でのマナーを身につける。

□Interventional Radiology (IVR)の基本的な手技を身につけ、独り立ち出来ることを目標とする。

【方略】

- ・ 指導医の専門分野として出席する他科とのカンファレンスに極力多く参加する。
- ・ CT、MRの読影症例、緊急を含めたIVR症例を極力、高密度に経験する。
- ・

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	CT	R(読影)	MRI	R	CT
午後	MRI	IVR	CT	IVR カンファレンス	MRI

内分泌代謝内科

【一般目標(GIO)】

基本的な内分泌代謝疾患の病態を理解し、診断できるようになる。

【具体的目標(SBOs)】

□各種の糖尿病の病態生理を理解し、診断できるようになる。

□各種の甲状腺疾患の病態生理を理解し、診断できるようになる。

□がんの免疫療法に伴う、内分泌系の有害事象とそれによって発生する内分泌代謝疾患の病態生理を理解する。診断に必要な検査等が判断できるようになる

【方略(LC)】

- 研修に有用な患者を指導医とともに共観し、診断、治療に従事する。
- カンファレンスを通じて内分泌代謝疾患の診断。治療を学ぶ。
- 基本的ではあるが稀な疾患については教科書等で座学する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	検査業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	カンファレンス	病棟業務	病棟業務

臨床検査科

【一般目標(GIO)】

基本的な臨床検査項目の結果の判断、解釈に必要な知識を取得する。

【具体的目標(SBOs)】

- 院内で実施している臨床検査項目の原理を理解する。
- 院内で実施している臨床検査項目についてその種々の病態における意義を理解する。
- 基本的な輸血検査手技を習得する。

【方略(LC)】

- 輸血検査の余剰検体を用いて、実際に自ら検査を行う。
- 過去の臨床現場からの検査の問合わせの記録を学習し、習熟の後自らが問合わせ業務に対応する。
- 日々発生する検査のパニック値に対して、該当患者のカルテから指導医とともにパニック値発生のメカニズムを考察する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	検査業務	検査業務	検査業務	検査業務	検査業務
午後	検査実習	検査業務	カンファレンス	検査実習	検査業務

病理・細胞診断科

【一般目標 (GIO)】

がん診療における病理診断の役割を理解する。当科へのローテーションは日常的な病理診断業務や剖検への参加を中心とし、さまざまな疾患の病理学的特徴を学び、病態把握や病因の考察にもとづく臨床的な問題解決能力の向上を目標とする。

【具体的目標 (SBOs)】

- 採取された組織や臓器を適切に取り扱い、固定方法や感染対策も含む標本作製プロセスを理解できる。
- 生検々体の組織所見を認識し、臨床医にとって有用な診断報告を作成できる。
- 手術検体の肉眼・組織所見を把握し、組織型や病期・予後因子を決定できる。
- 細胞診の役割を理解し、良悪性や推定組織型について評価できる。
- 迅速病理診断の役割を理解し、外科医に求められる術中判断を報告できる。
- 剖検症例の肉眼および顕微鏡的な異常所見を把握し、臨床経過や検査データとの関連性を吟味して病態や死因を総括できる。
- 階層的な病理診断法（免疫組織化学や遺伝子検査など）の意義が理解できる。

【方略 (LC)】

- 採取検体や摘出臓器を指導医とともに切り出し、肉眼・組織所見に考察を加えて個々の症例の病理診断報告を完成する。
- 生検・術中迅速組織診・細胞診標本を指導医と検鏡し、それぞれの状況で臨床医に求められる病理診断報告を完成する。
- 指導医とともに病理解剖を実施し、肉眼・組織所見にもとづく剖検診断を完成させ当該症例のCPCを担当する。
- 諸臓器がん別の臨床病理カンファレンスに参加し、個々の症例を深く検討する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	細胞診 生検初期診断	手術検体 切り出し	細胞診 生検初期診断	手術検体 切り出し	手術標本 初期診断
午後	生検確定診断	術中迅速診断	生検確定診断	術中迅速診断	手術標本 確定診断

* 上記は参考であり、希望に応じます。また、病理解剖が不定期に加わります。

麻醉科

【一般目標(GIO)】

麻醉・集中治療の現場において必要とされる基本手技および知識を身につける。また、急変時対応の行動手順についても学ぶ。

【具体的目標(SBOs)】

- 患者カルテ・検査所見から手術耐容能を評価して、適切な麻醉計画を立案できる。
- 手術室・ICUにおける生体モニター（心電図モニター、パルスオキシメータ、呼気終末CO2モニター、BISモニター、等）の原理を理解して、正しく判読できる。
- 麻醉薬や筋弛緩薬をはじめとする麻醉科領域の薬剤を正しく使用できる。
- 末梢静脈ルートの確保をはじめとする基本手技を実践できる。
- 中心静脈穿刺の種類と具体的方法について学び、可能な範囲で実践する。
- 気管挿管や声門上器具（ラリングマスク）による気道確保を経験する。
- 挿管困難症例の対応策・アルゴリズムについて学ぶ。
- 脊髄くも膜下麻醉、硬膜外麻醉の原理を学び、可能な範囲で実践する。
- ICUにおいて、人工呼吸器を正しく設定できる。
- ICUで使用するノルアドレナリンなどの血管作動薬の用量と使用法を正しく使用できる。
- 敗血症患者の治療方針を理解し、患者出来時には正しく対応できる。
- 心肺蘇生（CPR）コール出来時の対応を学ぶ。

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる外科手術患者の麻醉担当医となり、麻醉業務に従事する。
- ・患者を指導医とともに診察し、麻醉・集中治療について学ぶ。
- ・カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、患者の病態について習熟する。
- ・麻醉ないしはICU領域の最新の文献を検索し、抄読会で発表する。

【スケジュールなど】

毎日（月～金）

午前8時～8時半 ICUカンファレンス

午前8時半～9時 麻醉科カンファレンスおよび抄読会

午前9時～午後4時半 麻醉症例担当（第3週はICU研修）

午後1時～3時の間に指導医師によるミニレクチャーを週2回行う

午後4時半～ 外科との合同カンファレンス（金曜日及び適宜）

形成外科

【一般目標(GIO)】

代表的ながん治療における、形成外科的治療に関して、診断および基本的な治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

□形成外科的手術に先立って行われる画像検査などの必要な病態、疾患を理解し、施行出来る。

□各種再建手術について学び、皮弁の種類や解剖について説明できる。

□各種再建手術の合併症やその危険因子、対応方法について理解し、説明できる。

□形成外科手術における組織の愛護的操作や、創傷治癒について理解し、説明できる。

□形成外科手術は、多くの場合、他科との合同手術になるため、関連各科との術前カンファレンスに参加し、術前問題点の共有や術中術後の連携について学ぶ。

□上級医の行う形成外科的手術内容を記録したり、上級医の手術記録を理解することが出来る。

□手術後の患者さんの良好な創傷治癒、リハビリ、退院、社会復帰の過程、およびその妨げとなる要因を理解し、対応方法を学ぶ。

【方略(LC)】

- 研修に必要と思われる患者の担当医となり、手術を含む診療や検査に従事する。
- 患者を指導医とともに診察し、最適な再建方法の考察、予想される問題点について学ぶ。
- カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来業務	手術	外来業務	手術
午後	手術 病棟業務	手術 カンファレンス	手術 病棟業務	手術 病棟業務	手術 病棟業務

栄養腫瘍科

【一般目標(GIO)】

栄養療法全般について、生化学生理学の知識を基に、栄養障害の病態を理解し、障害の診断および基本的な栄養治療ができる必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 栄養障害を診断することができる。
- 栄養指標検査を理解し、各病態ごとに判断できる。
- 水分電解質の恒常性を理解し、各種輸液処方や薬物療法で管理できる。
- 静脈栄養の実際を理解し、処方の作成やリスクマネージメントが理解し、実施できる。
- 経腸栄養の実際を理解し、処方の作成やリスクマネージメントが理解し、実施できる。
- 摂食嚥下障害患者の病態を理解し、障害度の診断や経口アプローチが実施できる。
- NST回診をリードできる
- 栄養障害のコンサルテーションができる
- 診療報酬制度を理解する
- 在宅を含む地域連携に参加し、実際に患者の移行設定ができる

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる患者に対して、NSTとして関与し、担当医や病棟看護師とともに栄養治療に従事する。
- ・患者を指導医とともに栄養評価し、栄養処方を作成する。
- ・カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療に必要な栄養療法に習熟する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	回診事前評価	回診事前評価	回診事前評価	回診事前評価	回診事前評価
午後	カンファレンス	NST回診 カンファレンス	NST回診 カンファレンス	嚥下造影	NST回診 カンファレンス

腫瘍皮膚科

【一般目標(GIO)】

代表的な皮膚腫瘍と基本的な皮膚疾患の基本的診療に対応できるように必要な知識・技術を身につける。

【具体的目標(SBOs)】

- 患者・家族との良好な人間関係を築き、適切な問診を行い、診療録に記載できる。
- 外来診察に陪席し、皮膚所見を診療録に記載できる。
- 症候から鑑別診断を列挙し、適切な検査を選択できる。
- 入院診療においては担当医として、皮膚科疾患の検査・処置・治療を計画できる。
- 指導医の下で皮膚科的検査を実施できる。習得が望ましい検査としては、真菌鏡検（苛性カリ法）、ダーモスコピー、パッチテスト、プリックテスト、皮膚生検（パンチ生検）がある。
- 指導医の下で皮膚科処置（軟膏塗布、創傷処置、術後処置等）を実施できる。
- 日常診療で接する機会の多い皮膚疾患の病理組織所見を記載できる。
- 基本的な皮膚外科手技（切開、表皮縫合、簡単な良性腫瘍の切除術）を習得し、基本的手術の助手をつとめることができる。【研修期間が2ヶ月以上の場合には、基本的手術において指導医の下で術者となり、個々の技量に応じた皮膚外科手術を実施できる。】
- 他の医師、他の職種と協力しチーム医療を行うことができる。
- 各種ガイドラインを理解し、個々の症例に応じて適用することができる。
- 医学的文献を検索でき、症例発表を行うことができる。

【方略(LC)】

- ・研修に必要と思われる患者の担当医となり、診療や検査に従事する。
- ・患者を指導医とともに診察し、皮膚科医療について学ぶ。
- ・カンファレンスで担当患者についてプレゼンテーションを行い、各疾患の検査・治療について習熟する。
- ・他の医師、他の職種と協力しチーム医療を行う。
- ・各種ガイドラインを理解し、個々の症例に応じて適用する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	外来診療補助業務	全身麻酔手術	病棟業務	外来診療補助業務
午後	カンファレンス	病棟業務	局所麻酔手術	外来手術	病棟業務

<研修カリキュラム>

当科で研修中に、皮膚科に関連する下記の項目について、可能な限り経験するよう努力する。

1) 臨床検査

- KOH標本検査
- 最小紅斑量試験(MED)
- 貼布試験・光貼布試験
- 皮内試験・プリックテスト・スクラッチテスト
- 内服誘発試験

- 皮膚描記法・ガラス圧試験・ニコルスキーテスト
- 病理組織検査（代表的疾患30種）
- 針反応試験
- ツアング試験
- ダーモスコピー

2) 基本の手技

- 皮膚生検試験
- 一般細菌培養試験
- 抗酸菌培養試験
- 真菌培養試験
- 免疫蛍光抗体法
- 特殊自己抗体

3) 症状・病態・疾患

- 湿疹・皮膚炎群
- じんま疹・そう痒症
- 紅斑・紫斑
- 薬疹・中毒疹
- 水疱症・膿疱症
- 角化異常症
- 炎症性角化症
- 色素異常症
- 母斑
- 母斑症
- 良性腫瘍
- 悪性腫瘍・リンパ腫
- 付属器疾患（毛・爪・汗腺）
- 一般細菌感染症
- 表在性真菌症
- 深在性真菌症
- 抗酸菌感染症
- 性病
- ウィルス性皮膚疾患
- 褥瘡
- 血管炎・血行障害
- 静脈・リンパ管疾患
- 膠原病
- 代謝異常症
- 形成異常・萎縮
- 肉芽腫症
- 全身疾患の皮膚病変
- 外傷治療
- 熱傷、化学熱傷
- 急性じんましん、アナフィラキシー
- 職業性皮膚疾患

4) 治療

- 外用療法
- 内服療法（特にステロイド・抗生剤・抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤）
- 潰瘍処置
- 密封療法
- 局所注射療法
- 光線療法（PUVA・UVB・赤外線）
- 凍結療法
- 電気焼灼
- 薬浴療法
- パルス療法
- 血漿交換療法
- 小手術（含む簡単な切除植皮）
- 手術（悪性腫瘍・広範な切除植皮）
- 静脈瘤硬化療法
- 悪性腫瘍化学療法
- レーザー療法
- 全身状態維持・管理（含む呼吸循環管理・経管栄養・ターミナルケア）
- 生活指導（食事、衣服、入浴、生活環境、作業）
- 慢性皮膚疾患患者への説明

感染症内科

【一般目標(GIO)】

- 感染症診療の基礎を学ぶ。
- 病院における感染症部門や微生物検査室の役割を理解する。

【具体的目標(SBOs)】

- 血液培養陽性症例に対して感染症の診断と治療について考察できる。
- 微生物検査室における細菌検査の行程を説明できる。
- 感染対策チームおよび抗菌薬適正使用支援チームの役割を説明できる。

【方略(LC)】

- Microbiologyラウンドに参加し、検査技師より血液培養陽性例の新規報告を受ける。感染症医と血液培養陽性例のグラム染色を観察後、カルテレビューし、診断（感染臓器、原因微生物）と治療（抗菌薬）について考察する。
- 微生物検査室において検査技師と検体のグラム染色、培養実習を行う。
- 感染対策チームのラウンドに参加し、院内を巡回しながら、MRSAなど耐性菌を検出した症例の感染対策状況の確認等を行う。
- 抗菌薬適正使用支援チームのラウンドに参加し、院内の血液培養陽性例、広域抗菌薬使用例、抗MRSA薬の使用例を監視する。

【スケジュールなど】

	月	火	水	木	金
午前	Microbiology ラウンド	Microbiology ラウンド	Microbiology ラウンド	Microbiology ラウンド	Microbiology ラウンド
午後	微生物実習 ASTミーティン グ	微生物実習 微生物検査室ミ ーティング ASTラウンド	微生物実習 ICTラウンド 隔週で感染症セ ンター会議	微生物実習	微生物実習 血液内科カンファ レンス

ICT: Infection Control Team（感染対策チーム）、AST: Antimicrobial Stewardship Team（抗菌薬適正使用支援チーム）

成人病ドック科

【一般目標 (GIO)】

疾病発症一次予防として生活習慣病の罹病率・死亡率減少のための健康増進、そして疾病発症二次予防としてがんならびにがんサバイバーをはじめとして生活習慣病の早期発見・早期治療を行うことで、健康を担う医師としての役割を果たすことができるように研修を行うことを目標とする。

【具体的目標 (SBOs)】

人間ドック専門医と共に以下の項目について研修を行う

- 医療面接の実践を研修する
 - ・医療面接とは：人間ドック受診者の臨床背景を把握すると共に、生活習慣の問題点を指摘しその改善指導をおこなう。
- 受診者を指導医と共に診察する。
 - ・人間ドックにおける診察法とは：ドックとして必要な身体診察法が実施しその記録を SOAP に準じて行う。さらに、診察結果を受診者に正しく説明する。
- 人間ドック検査について研修する。
 - ・人間ドック健診における臨床検査とは：検体検査、生理学的検査、画像検査、病理学的検査について実際に経験することで検査チームとの連携、各検査においてベネフィットとリスクを理解する。基本検査項目以外の検査については受診者の同意をとることで施行する。
- 医療面接を指導医について見学・経験する。
 - ・医療面接とは：人間ドックで施行した身体診察、検査所見に基づいた健康評価ができ、その結果を受診者に正しく説明する事。さらに、健康評価の結果から、必要な再検査、精密検査の指示をし、その後の健診計画を受診者と共に立案する。
- 人間ドック事後指導ならびに専門医への紹介について研修する
 - ・事後指導とは：再検査、精密検査の結果を受診者に指導し、事後指導ができること。
 - ・専門医への紹介とは：診断の結果から、各学会のガイドラインに基づいた標準的なマネジメントのもと、専門医に紹介すべき病態・疾患が診断できる。
- 社会への予防医学活動、健康啓発について研修する。

【方略 (LC)】

・症例経験：

実際に成人病ドック科で施行している人間ドック（成人病ドック）を指導医と共に経験する。

・実際の健診で指導医が受診者に対して行う内容

1. 人間ドック健診受診者について、問診情報による個々の受診者の臨床背景に基づき、指導医と共に検査結果の説明を行い必要な生活習慣の修正指導を行う。
2. 治療の必要性について、適切に専門医への紹介、医療連携ができる。
3. 治療中の受診者については、その治療が関連学会の定める治療目標に達しているか等についてセカンドオピニオンができる。

【研修スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	ドック患者 診察	ドック結果 報告書作成	ドック フォロー アップ診察	ドック結果 報告書作成	ドック フォロー アップ診察
	病診連携書作成	ドックカンファ レンス			
午後	ドック結果説明	ドック結果 報告書作成	ドック患者 診察	ドック結果 報告書作成	ドック フォローアップ診察